

【議事】定8

(4) 宇宙探査シンポジウム及び国際宇宙探査戦略に関するワークショップの開催について

JAXA の樋口理事が、資料 8-4(宇宙探査ワークショップ)を説明した後、活発な質疑応答があった。

会議は3月6日(火)~9日(金)に開催される。参加費は無料。後半は関係者のみで行うワークショップ。3月7日(水)の朝、NASA グリフィン長官の基調講演がある。

青江: テーマ の前提を決める、協力のメカニズムを決める、協力可能な項目を抽出する、ということは、これから先の大規模なプロジェクト、日本の国の大きなものを占めるような活動に対し、基本的対処方針を予め相談頂くよう、従前より申上げているので、是非相談させて頂きたい。

JAXA 樋口: その心算で居ります。今、このような言葉が入ると、具体的な段取りが決まるような印象を与えるが、きわめて概念的なことを相談している段階である。「是非一緒にやるべき」とか「公開でやろう」とか、概念的・普遍的なことを整理している。明日のプロジェクトに影響することは煮詰まっていない。また、タイムリーに報告させていただく。

池上: リファレンスアーキテクチャは、ヨーロッパ的なやり方であるが、どんなイメージなのか。

JAXA 樋口: 月探査をするとしたら、どんな機能を持つべきかというリストを作るとか、青写真まで行かない機能の羅列の様なもの。

池上: 或いは言葉のデフィニションとか。

JAXA 樋口: そうです。それが早いですね。これもヨーロッパが提案

していて、そのようなものは出来ないという意見もあり、合意が得られて作り始めるまで時間が掛かると思われる。

池上: 良いですね。日本は何も言葉を定義しないでスタートするけれど、向こうは...(回答が重なり聞こえない)

JAXA 樋口: 「こんな当たり前のことを」と云うことから書き始める。

森尾: 国際会議に何カ国参加するのか。

JAXA 樋口: 今、14 宇宙機関が参加予定である。また、どの国も国がコミットしてはいない。宇宙機関同士で情報交換している。

森尾: アジア各国とは2 国間の協力活動を行っている。これとは違うと思うが、これを機会にバイラテラルの水面下の会議はあるのか。

JAXA 樋口: 大抵、皆が5 日くらい前に来るので、先に大体セットしてやる。今回も NASA や ESA とは事前に話をする。また、今も毎日のように電話会議で話し合っている。此处は、或る意味で仕上げの場所になる。

松尾: 毎日のように話し合っている割に、漠然とした話で、一寸解らない。

JAXA 樋口: 14 機関、それぞれ思惑と動きが違うので、大変手間取っている。

青江: アメリカが、今回、3 月で、何かしたいことが有るのか無いのか。問題は端的に言ってそれだけである。

JAXA 樋口: 其処は、正直解りませんと答えたほうが良いと思う。12 月のヒューストンで、あのような構想を出されたのが、アメリカのどのような思いで、「入り口の議論をするより具体的な話をしよう」と云う趣旨と思うが、...(話を切られた)

青江: 私は、12 月の話を聞いて、非常に警戒的になった。かなり、

プログラム・オブ・プログラムの考え方でなく、一国主導とでも云う考えが強く出ていると感じた。また、個別具体的な協力項目というか、領域と言うべきものなのか、これは協力で、これは独自でやるという、あの分類表が出てきて、其処を更に突き進むのではないかと、迫ってくるのではないかと、そんなことが3月にあるのではないかと心配をした。其処が本当にどうなるんでしょうか。「そんな調子でお付き合いする訳には参りませんね。」と云うのははっきりさせて置かないと困る。

JAXA 樋口: 会議の事前打ち合わせを事務局同士がやっているが、議題上そのような雰囲気になっている。先程のフレームワーク文書とか、前からやってきたグローバル・エクスプロレーション・ストラテジーと云った、人類全体の月・惑星探査の戦略を整理しようという活動、また、先ほど言ったアーキテクチャーについて、どういうものと考え、どういう風に作っていかうということが議題のメインになっている。むしろ、バイの会合のときにそのような話しが出てくるかもしれない。

松尾: ただ、いずれにせよ、わが方、腰を据えなければいけない。前半のところでは、正にそれに対応する代案を持ち、次のステップはどういう風に進めるか。それで、後半2日目で基調講演を沢山やる。今までの枠組みづくりの議論に加わった機関なのか。

JAXA 樋口: このメンバーは、全員全期間参加した。

松尾: そうですか。はい。

JAXA 樋口: 後もう一つ、最初、NANAのグリフィン長官とESAのドーダン長官お二人に基調講演をと思っていたが、そのほかもプレゼンスを示したいということで、こういうことになった。本来、

我々としてはNASA長官からNASAの考えを関係者に報告して貰えば良い、ということで企画したが、実際このようなプログラムになった。

松尾: 聞かなかったことにします。